

平成19年度 大学院教育改革支援プログラム 計画調書

機 関 名	同志社大学	機関番号	34310	整理番号	a-2
申請者(学長)	八田 英二	所在地(都道府県)	京都府		
1. 申請分野(系)	a<人社系> ・ b<理工農系> ・ c<医療系> ○を付してください				
2. 教育プログラムの名称	国際的「理論・実践循環型」教育システム (福祉各界で活躍する高度専門職業人の育成)				
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 社会学 主なものを左から順番に記入(5つ以内) (社会福祉学、国際社会福祉、社会福祉教育・実習、ソーシャルワーク)				
4. 研究科・専攻名 ([]書きで課程区分を記入、同一大学内の複数の専攻で申請する場合は、全ての研究科専攻名を、他の大学と共同申請する場合は大学名、研究科専攻名を記入)	(主たる研究科・専攻名) ※ 研究科名または研究科専攻名を教育課程に応じて記載 社会学研究科 社会福祉学専攻 [博士前期課程、博士後期課程] (研究科専攻名) (他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)				
5. 取組実施担当者 (複数の研究科・専攻又は大学で申請する場合は、それぞれの研究科・専攻又は大学に所属する教員を取組実施担当者としてください。代表者は、主たる研究科・専攻に所属する教員としてください。)					
ふりがな 氏 名(年齢)	所属研究科・専攻・職名	現在の専門	学 位	役割分担	
うずはし たかふみ 埋橋 孝文(55)	社会学研究科・社会福祉学専攻 ・教授	社会福祉学	博士(経済学)	代表者	
くろき やすひろ 黒木 保博(58)	社会学研究科・社会福祉学専攻 ・教授	社会福祉学	文学修士		
うえのや かよこ 上野谷加代子(57)	社会学研究科・社会福祉学専攻 ・教授	社会福祉学	家政学修士		
こやま たかし 小山 隆(48)	社会学研究科・社会福祉学専攻 ・教授	社会福祉学	文学修士		
きはら かつのぶ 木原 活信(41)	社会学研究科・社会福祉学専攻 ・准教授	社会福祉学	博士(社会福祉学)		
6. 申請経費 (単位:千円) 千円未満は切り捨てる ※他大学との共同申請の場合は、大学ごとの経費内訳を()書きで記入	年 度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	合 計
	取組規模	10,500	12,500	11,000	34,000
	内 訳 補助金申請額	6,500	9,500	8,000	24,000
	大学負担額	4,000	3,000	3,000	10,000 <採択時公表>
機 関 名	同志社大学	申請分野(系)	人社系		

教育プログラムの名称	国際的「理論・実践循環型」教育システム (福祉各界で活躍する高度専門職業人の育成)
主たる研究科・専攻名	社会学研究科 社会福祉学専攻 [博士前期課程、博士後期課程]
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)	
取組実施担当者	(代表者) 埋橋 孝文

[教育プログラムの概要]

本教育プログラムは、「一人一人ハ大切ナリ」(新島襄)の精神にもとづき、「理論の実践化と実践の理論化」の実現のために実施される。これまで長年にわたって培ってきた豊富で国際的な人材・各種福祉機関ネットワークを活用しつつ、大学院教育における国際的な「理論・実践循環型」教育システムを構築する。

1. 具体的な教育取組み

社会学研究科社会福祉学専攻が取り扱う社会問題、生活問題へのアプローチには、観察能力、問題発見能力、実証分析能力、あるいは実践解決能力が求められている。こうしたスキルの修得のためには福祉現場におけるフィールドワーク(実習)が欠かせない。したがって、具体的な教育取組として、**第1に**、前期課程では現在も実施している各種福祉施設・機関でのフィールドワーク(実習)を必修化する。と同時に、海外での各種フィールドワークの場を開拓し、それを単位に組み入れることにする。後期課程では、国際アドバイザー・コミッティの協力を得ながら、院生主体国際セミナーの開催や国際共同プロジェクトを組織し、国際的な場で活躍する研究者、高度専門職業人の育成に努める。**第2に**、大学院社会福祉教育・研究センターおよび同志社社会福祉学会の協力を得ながら、福祉現場で活躍するゲストスピーカーを招き定例会・コンフェレンスとスーパーバイザー養成講座を開催し、将来の職業的スキルとモチベーションの涵養に努める。また、同教育・研究センターのおこなう調査研究、教材開発にリサーチアシスタント(RA)として参加することにより、研究者あるいは高度専門職業人としての研究分析能力の高進を図る。また、院生主体国際セミナーにおいては、大学院生もセミナーの運営に積極的に関ることとし、そうすることにより、プロジェクトの企画やマネジメント能力の涵養も期待できる。そうした積み重ねから、国内的には上級ソーシャルワーカーや福祉スーパーバイザー、また、国際的には国際NGO・NPOのリーダー、国際機関の福祉コーディネーターなどの人材を育成することが期待される。

2. 国際アドバイザー・コミッティの設置

学術交流包括協定校の中での社会福祉系学部・大学院(12校)、あるいは海外在住の元客員&特別招聘客員教授と招聘予定の客員教授を組織化した国際アドバイザー・コミッティを設置する。これらのコミッティによる海外でのフィールドワークの受入れ指導体制、国際共同研究シンポジウム、院生主体国際セミナー、カリキュラム改革、研究指導さらには研究教育評価システムの導入など、支援・評価体制を研究者・高度専門職業人養成システム改善に導入する。

3. 社会福祉教育・研究センターによる「理論と実践の好循環」の実現

同志社大学社会福祉学科では、卒業生からの募金をもとに、2007年10月、社会福祉教育・研究センターを設立する予定である。このセンター、および、福祉各界で活躍する人材が多数会員になっている同志社大学社会福祉学会(1986年設立、会員数500名)との密接な協力の下、ケース・コンフェレンスとスーパーバイザー研修会を開催し、それに院生(前期および後期課程)の参加を促す。これらには大学院担当教員も参加し、ワークショップ形式で運営する。2年間の実績を吟味しつつ、単位化の方向を検討する。同センターの研究活動としては、福祉職のキャリアパスの調査・開発とその教育・啓発用ビデオの製作を予定しているが、これに院生がRAとして参加することにより、観察能力、問題発見能力、実証分析能力、あるいは実践解決能力の向上を実現する。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

国際的理論・実践循環型教育システム

